

封印された清代字書《字貫》 について

大東文化大学大学院
中国言語文化専攻
丁 鋒

1.1 《字貫》の編纂者と成書過程

(1) 編纂者

- 清朝乾隆年間の挙人(科挙試験第一段階である郷試合格者)王錫侯。
- 出身地:江西承宣布政使司瑞州府新昌県(現江西省宜豊県)棠浦郷沐溪西濱村。
- 生卒年:康熙51年(1712)生まれ、38才で挙人の試験に合格し、乾隆42年(1777)北京で処刑された。
- 著作:《字貫》(40卷)以外、《国朝試帖詳解》、《江西文観》、《王氏源流》、《経史鏡》、《望都県志》、《書法精言》、《観応編注》などある。

現代の棠浦

棠浦の農業地帯



棠浦の小学校



1.2 《字貫》の編纂者と成書過程

(2) 成書過程

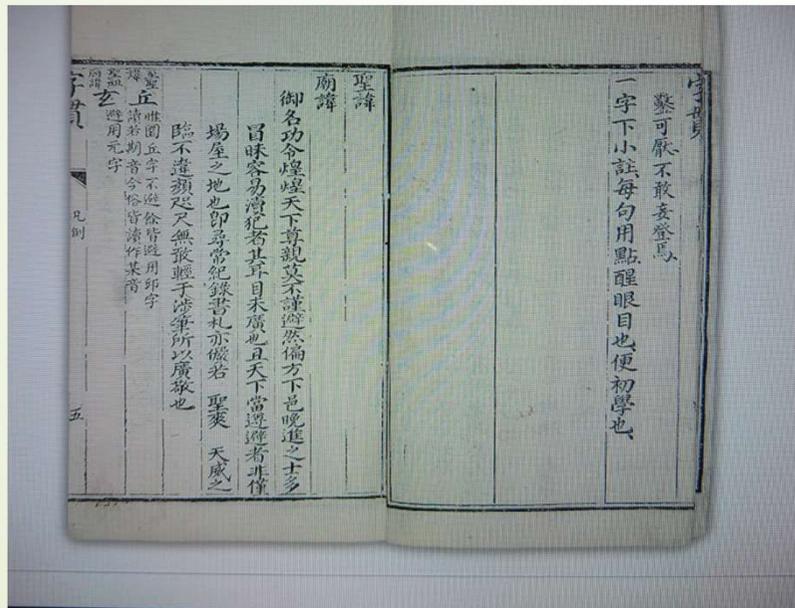
- ▶ 乾隆32年(1767)から編纂し、39年(1774)二月完成。
- ▶ 編纂は、「茲謹遵《字典》之音訓，擴充《爾雅》之義例。」(「自序」)、部首の画数と所収字の画数による配列の《康熙字典》(1716)を「以類相比，便于學者會通」のため、義類による配列で改編した。
- ▶ 《字貫》の書名：「字猶散錢，義以貫之；貫非有加于錢，錢實不妨用貫，因名之曰《字貫》。」(《自序》)
- ▶ 乾隆40年(1775)3月刊行。初刊本以外、再刊本も現存。

2.1 字貫案の起因と顛末

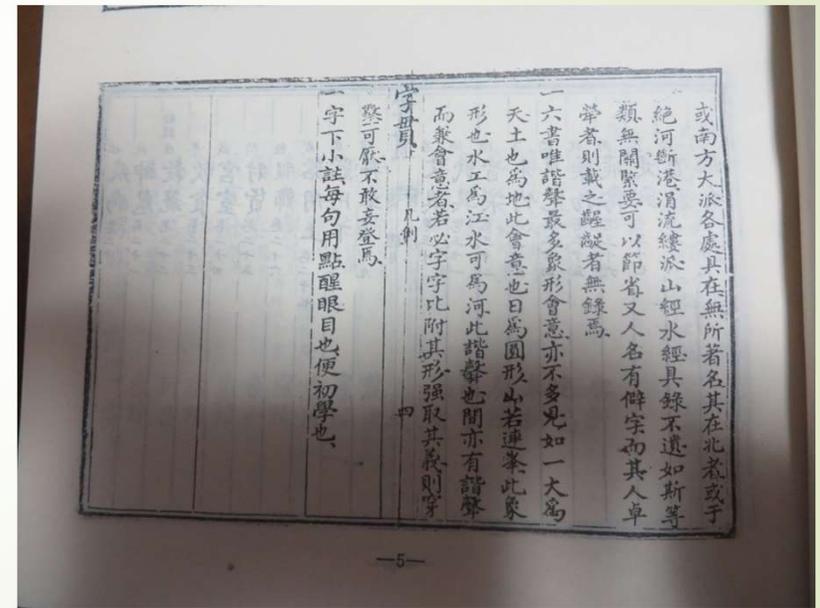
- ▶ 《字貫・自序》に書かれた《康熙字典》を批判する文言を見た親戚王瀧南が「《康熙字典》に対する不敬」と考え、新昌県の役人に告発する。
- ▶ 報告を受け、《字貫》を調査した江西巡撫海成が《康熙字典》批判は無礼であると判断し、王錫侯から挙人の資格剥奪を乾隆帝に上奏する。
- ▶ 《字貫》を審査した乾隆帝は「凡例」の「聖諱・廟諱」に康熙帝玄燁、雍正帝胤禛、乾隆帝弘曆の実名(諱)が直書(末画が欠筆)されていることを見つけたため、「大逆不法」の事件に発展した。
- ▶ 王錫侯を初め、子三人と孫四人が北京に連行し処刑され、計二十一人が連座した。尋問中、王錫侯は初刊本の「聖諱・廟諱」は問題あると認識し、削除した再刊本を作ったと供述した。
- ▶ 《字貫》は禁絶書に指定され、刊行された《字貫》とその版木及び王錫侯が書いた他の著書も全部押収され、焼却された。
- ▶ 海成が犯罪事実を発見できなかったため、死罪とされた。江西総督兩河など官員は処分など受けた。

両刊本の違い(凡例最後の部分)

初刊本



再刊本



2.2 字貫案の文献資料：《纂修四庫全書檔案》(1)

- ▶ ①乾隆四十二年十月十二日 四三七 江西巡撫海成奏續進備選及應毀各書并祈校刪志乘折。
- ②乾隆四十二年十月十八日 四三八 江西巡撫海成奏遵派分發教職回籍訪查違碍書籍折。
- ③乾隆四十二年十月十九日 四四一 寄諭江西巡撫海成等速將王錫侯解京嚴審并搜查其家及流傳各省書板。
- ④乾隆四十二年十月二十二日 四四三 寄諭江西巡撫并各督撫實力速辦《字貫》一案。
- ⑤乾隆四十二年十月二十五日 四四六 諭內閣海成不知有尊君親上之義着交部嚴加議處。
- ⑥乾隆四十二年十月二十七日 四四八 寄諭山東巡撫郝碩即由川馳赴江西新任并差人將革撫海成送京。
- ⑦乾隆四十二年十一月初六日 四四九 寄諭兩江總督高晉迅赴江西傳旨將海成摘印派員解京。
- ⑧乾隆四十二年十一月十二日 四五〇 諭內閣將海成交部嚴加議處，其江西巡撫員缺，着郝碩調補。
- ⑨乾隆四十二年十一月十四日 四五三 寄諭兩江總督高晉等飭屬訪查《字貫》及相類悖逆書籍。
- ⑩乾隆四十二年十一月十八日 四五四 山西巡撫巴延三奏遵旨派員訪查王錫侯所作《字貫》一書折。
- ⑪乾隆四十二年十一月十八日 四五五 江南學政劉墉奏查辦王錫侯所作《字貫》情形折。

字貫案の文献資料：《纂修四庫全書檔案》(2)

- ⑫ 乾隆四十二年十一月二十四日 四五六 軍機大臣奏逆犯王錫侯押解到部請旨遵辦片。
 - ⑬ 乾隆四十二年十一月二十四日 四五七 寄諭江蘇巡撫楊魁遣員至史奕昂家傳旨呈繳王錫侯著書。
 - ⑭ 乾隆四十二年十一月二十五日 四五九 諭王錫侯着從寬改為斬決。
 - ⑮ 乾隆四十二年十一月二十八日 四六〇 署兩江總督薩載奏遵旨查辦王錫侯《字貫》及相類書籍折。
 - ⑯ 乾隆四十二年十二月十七日 四六二 山西巡撫覺羅巴延三奏遵旨嚴查《字貫》及相類悖逆書籍折。
 - ⑰ 乾隆四十二年十二月十九日 四六三 广西巡撫吳虎炳奏遵旨詳查《字貫》并相類書籍情形折。
 - ⑱ 乾隆四十二年十二月二十一日 四六四 云貴總督李侍堯奏遵旨查繳《字貫》一書情形折。
 - ⑲ 乾隆四十三年正月初九日 四六六 寄諭江西巡撫郝碩即速確查王錫侯《字貫》一案失查人員。
 - ⑳ 乾隆四十三年正月十四日 四六九 諭內閣郝碩折參失察《字貫》之府縣各員俱不必革職治罪。
 - ㉑ 乾隆四十三年二月初三日 四七二 浙江巡撫王亶望奏查繳《字貫》等應毀書籍情形折。
 - ㉒ 乾隆四十三年二月初八日 四七三 江西巡撫郝碩奏續獲王錫侯各種書籍情形折。
- 乾隆42年10月12日から43年2月8日の約四か月間、朝廷から22回、地方に通達した。

2. 3字貫案の研究：中国と日本(1)

中国：

- 祝注先《歷史上的一起辭書冤獄－王錫侯和字貫案》、《辭書研究》1983年6月；
- 吳伯顏《康熙字典・字貫・字典考證》、《文史知識》1984年10月；
- 郭成康《〈字貫〉〈一柱樓詩〉兩案与乾隆查弁禁書》、《史學集刊》1988年7月；
- 舒寶璋《嘔心〈字貫〉家破人亡－語文學家王錫侯事略》、《江西社會科學》1995年10月；
- 危兆蓋《清代文字獄閑話》、《民主》1995年第2号；
- 趙志毅《清代文字獄辨》、《東南文化》1997年第3号；
- 徐葦《清乾隆年間江西禁毀書查繳始末研究》、《江西圖書館學刊》1999年12月；
- 李雪濤《一位傳教士記載的王錫侯〈字貫〉案》、《尋根》2006年4月；
- 朱正《清代文字獄兩案例》、《同舟共進》2006年第3号；

2. 3字貫案の研究：中国と日本(2)

中国(続き)

- 黄文斌《再論清代文字獄》、《边疆經濟与文化》2007年第2号；
- 張兵、張毓洲《清代文字獄的整体狀況与清人的載述》、《西北師範大學學報(社会科学版)》2008年第6号；
- 羅波《清代王錫侯字貫案的歷史人類學考察》，南昌大學碩士論文、2008年12月。
- 何巧云《王錫侯事履索隱》、《圖書館理論与实践》2009年7月；
- 何振作《王錫侯著述考》、《江西圖書館學刊》2010年5月；
- 劉衛群、邱進春《一部字書引發的文字獄——王錫侯〈字貫〉案》、《新鄉學院學報(社会科学版)》2010年8月；
- 孫光妍、宋鑿《清代文字獄案例評析——以数拋統計為中心的考察》、《法律適用(司法案例)》2018年第16号。

2. 3字貫案の研究：中国と日本(3)

日本

- 阿辻哲次「『康熙字典』の悪口で死刑になった話」、「月刊しにか」72号、大修館書店、1996年3月。
- 阿辻哲次『タブーの漢字学』、講談社、2004年4月。
- フリー百科事典ウィキペディア：「字貫」、阿辻2004参照。

3. 《字貫》の収蔵・出版・改編：中国と日本(1)

中国

- 字貫案で既刊の《字貫》は当時、押収・焼却(261部)されたが、その前に売り出した分の収蔵先は不明。
- 国際文化出版公司1993年版《字典彙編》(全30冊)の第17冊、第18冊に所収する《字貫》影印本は全40巻中28巻しかない残欠本となり、収蔵先も不明。当版本の首巻にある「凡例」に「聖諱、御諱」の部分がないため、再版本と断定される。(阿辻2004、第221-225頁参照)
- 《四庫禁燬書叢刊：經部》第十冊《字貫提要》40巻(北京出版社、1997年、全487頁)

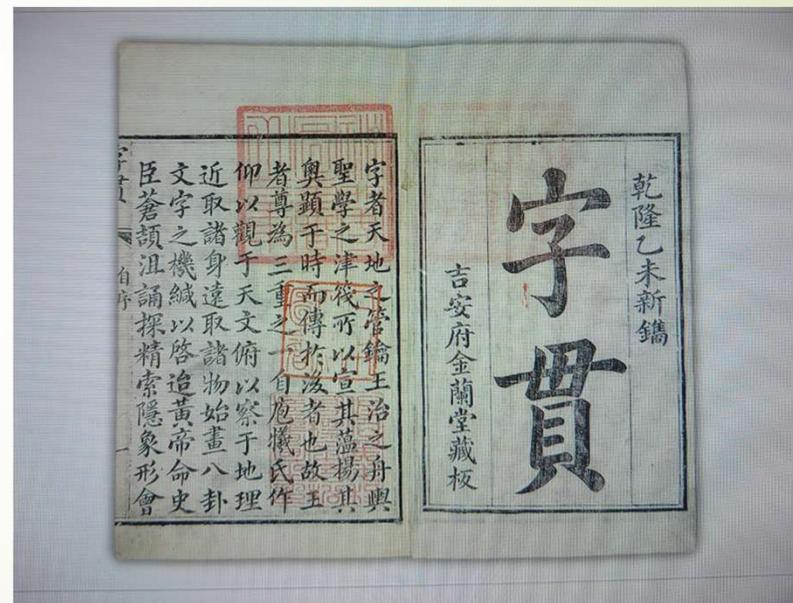
3. 《字貫》の収蔵・出版・改編：中国と日本(2)

日本

- ▶ 内閣文庫、《字貫》全40巻所蔵。
- ▶ 江戸時代安永5年(1776)、長崎に入港した中国船の積荷として、佐伯藩毛利高標(たかすえ)が購入した。孫の高翰(たかなか)から幕府に献上された2万冊に含まれたもの。
- ▶ 四十冊、乾隆40年初刊本。
- ▶ 国立公文書館デジタルアーカイブ公開中。

(同時購入の2部中、天理図書館所蔵《字貫》40巻)

內閣文庫所藏『字貫』



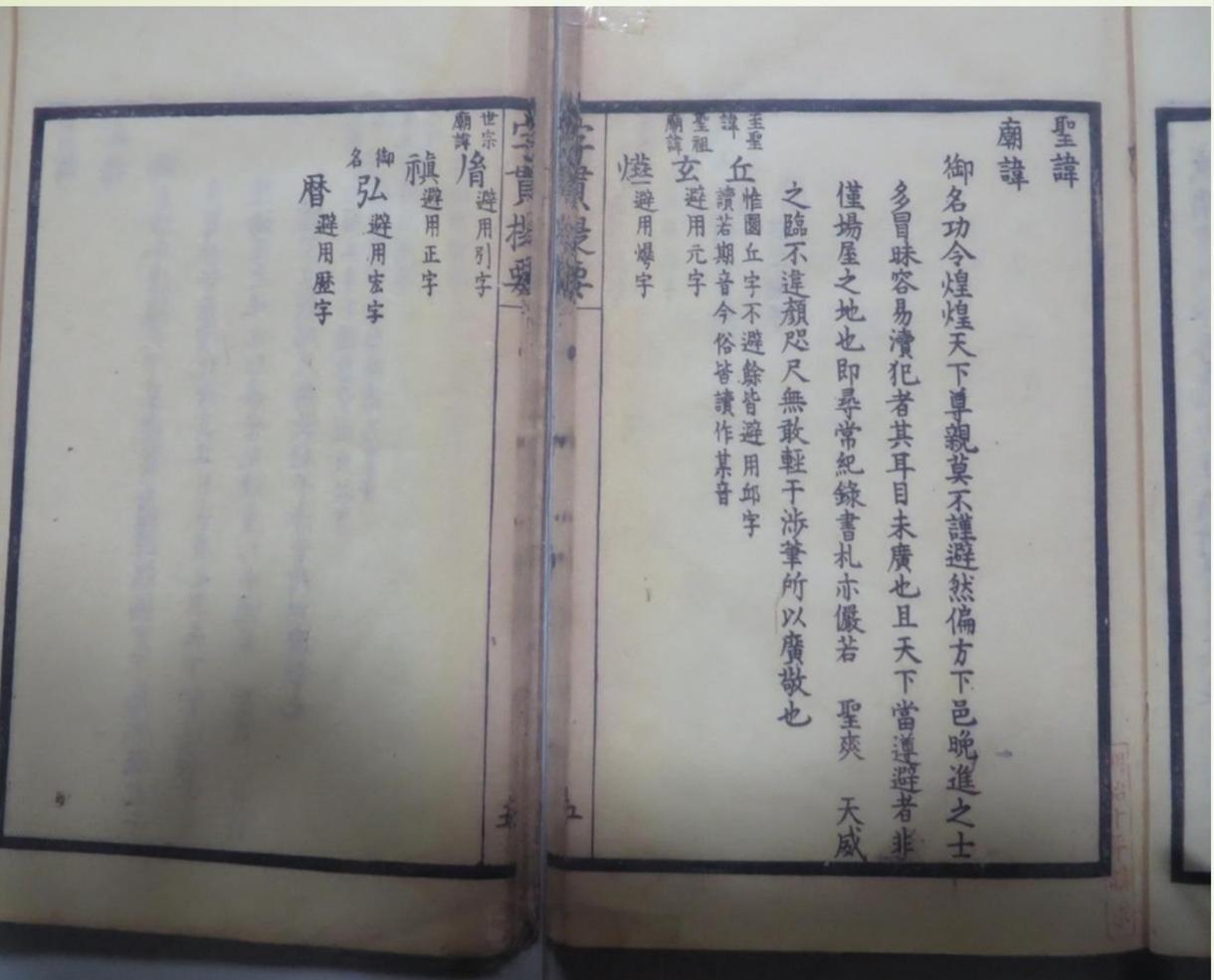
4. 『字貫』の改編本 『字貫提要』(1)

- ▶ 江戸時代刊本、訓点付き、節略者・刊行者不明、刊行年不明。
- ▶ 内閣文庫所蔵本、請求番号：278-0122、全十冊。ネット公開中。
- ▶ 「字貫凡例」の最後に、「聖諱・廟諱」の部分あり、初刊本による改編本となる。
- ▶ 改編に利用した原本は幕府所蔵本の可能性。

『字貫の改編本』

『字貫提要』(2)

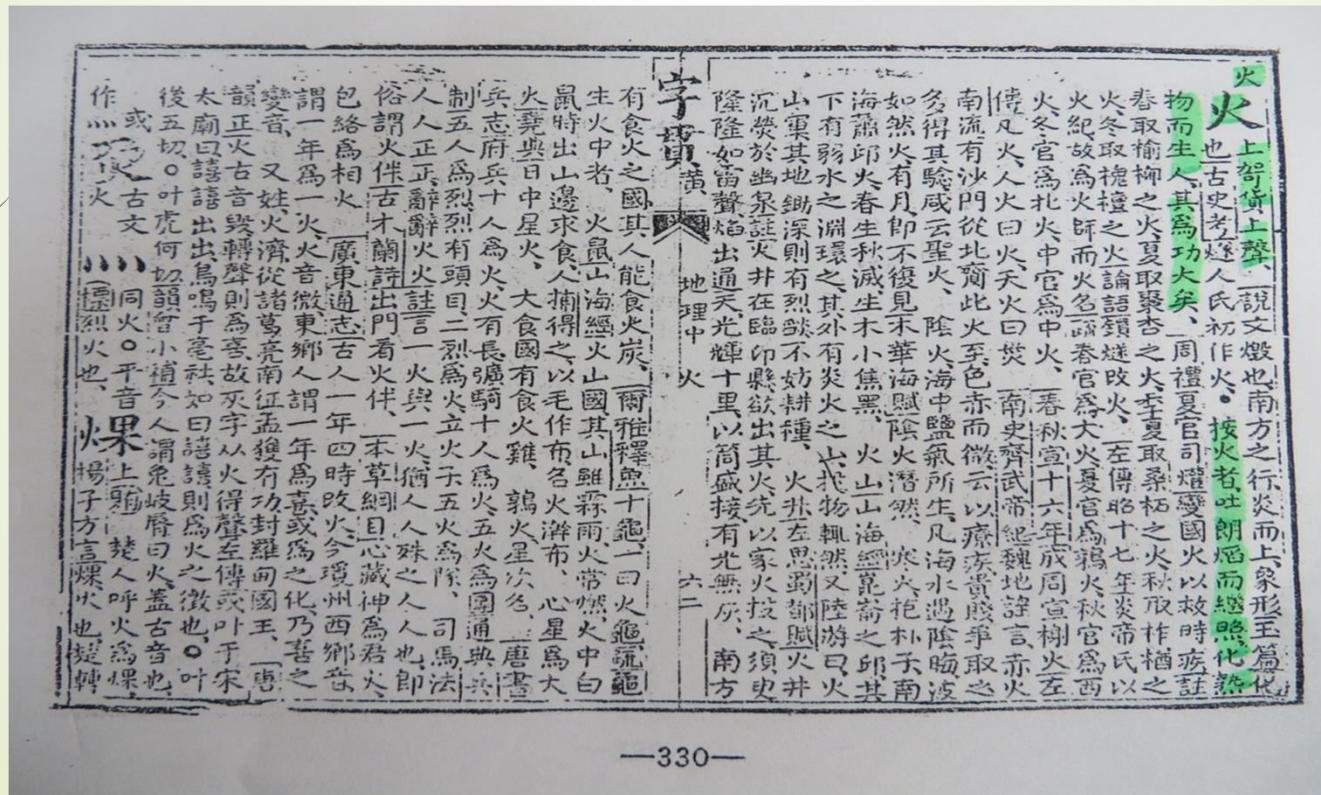
▼ 凡例の最後部分 聖諱 廟諱



4. 『字貫』の改編本『字貫提要』(3)

- 改編手法：
 - ①『字貫』の構成(序文、凡例、総目、佩文詩韻、参閲姓氏、跋文、本文)に変更ない。
 - ②「検字総目、検字」削除された。
 - ③字数削減しない。
 - ④音注(反切、直音)の採用。
 - ⑤義釈を大幅に削除したが、「按語」部分はほぼ完全に残った。
- 改編は「漢字・音注・按語」の三要素を重要視した。

4. 用例1:『字貫』の項目「火」

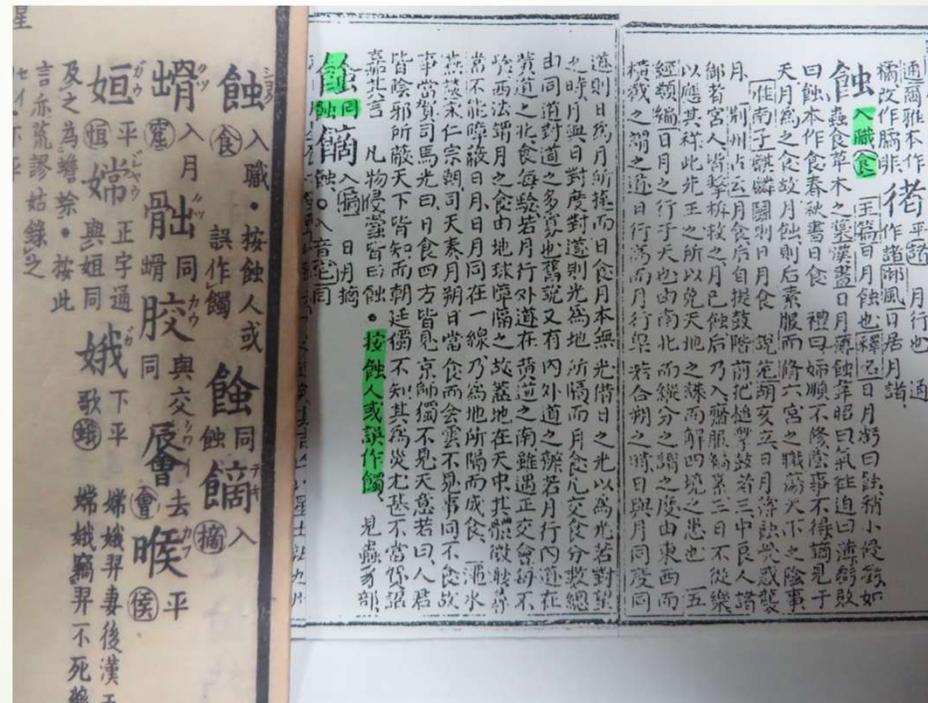


露

露

路去遇

4. 用例3、『字貫』の「蝕」と『字貫提要』の「蝕」



6. 《字貫》の字書研究価値

- ①収録字数は四万三千個に上り、清代の一大字書として明代梅膺祚『字彙』(1615年、33179字)、清代張自烈『正字通』(1670年、約33000字)、『康熙字典』(1710、49035字)に比肩出来る。
- ②『字貫』の編纂は『康熙字典』を参照し、一部の積義も取り入れたが、独自性のある反切・直音をつけた音注系統は音韻学の研究価値を有する。
- ③大量の古典文献と明清時代の文献を引用し、参考文献の全容調査が可能である。
- ④『字貫』は『爾雅』の体例により編成され、雅書の運用研究ができる。
- ⑤『字貫』にある数多くの「按語」は、『字貫提要』も重要視したように、専門研究が必要である。



ご清聴、有難うございます。